

年度 2009 学期 後期	曜日・校時 火曜日・4校時	必修選択 選択	単位数 2 単位
授業科目 (英語名)	社会と歴史：教養としての西洋史 (Society and History : Occidental History as culture)		
対象年次 1-2 年次	講義形態	講義	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類	人文・社会科学科目	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 正本 忍 / masamoto@nagasaki-u.ac.jp / 環境科学部4階 406 / 819-2742 / 金曜日 14:00~15:00			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法 (学習指導法) /授業到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義のねらい 本講義のテーマは「教養としての西洋史」である。従来の世界史像は、ヨーロッパ人によるヨーロッパ中心の世界史像として創出されたものである。第二次大戦後、アジア、アフリカを中心に「世界」は拡大し、21世紀を迎えた現在、ヨーロッパに視野を限定して世界史像を語ることはもはやできない。しかしながら、ヨーロッパ中心の世界史像を乗り越えて21世紀の新たな世界史像を構築するためには、ヨーロッパの通史的理解がその前提となることもまた事実である。以上を踏まえた上で、現代人の教養として西洋史の基礎的知識を教授することが本講義のねらいである。 ・ 講義方法 歴史は現代を見る鏡である。歴史を語りながらも、常に現代の社会問題を想起させるよう講義したい。 ・ 到達目標 各回のテーマに挙げたような西洋史の大きな流れを理解することによって、今後予想されるさらなる格差の拡大、貧困、環境破壊、紛争（テロ、戦争を含む）などについてより包括的に考えられる理解力、洞察力を獲得する。 			
授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む) テーマ：教養としての西洋史 1回目 ヨーロッパとは何か 2回目 古代ギリシア、古代ローマの歴史 3回目 封建社会 4回目 ルネサンスと宗教改革 5回目 絶対主義の時代 6回目 ヨーロッパ世界の拡大 7回目 市民革命と近代民主主義 8回目 産業革命と工業社会 9回目 自由主義の拡大とナショナリズムの台頭 10回目 市民社会の成立 11回目 労働運動と社会主義 12回目 帝国主義と第一次世界大戦 13回目 ファシズムの台頭と第二次世界大戦 14回目 関連ビデオ鑑賞（途中の回に入る可能性あり） 15回目 総括・試験			
キーワード	世界史、ヨーロッパ		
教科書・教材・参考書	教科書は使用しない。主要参考文献：中井義明他『教養のための西洋史入門』ミネルヴァ書房、2007年。古賀秀男・西嶋有厚・前間良爾編『現代人の西洋史』法律文化社、1979年。ほか		
成績評価の方法・基準等	定期試験（論述を含む）（100％）。出席は受験資格の確認のみに用いる。		
受講要件(履修条件)	講義中の私語、飲食、帽子の着用を厳禁する。		
本科目の位置づけ /学習・教育目標			
備考(準備学習等)			